
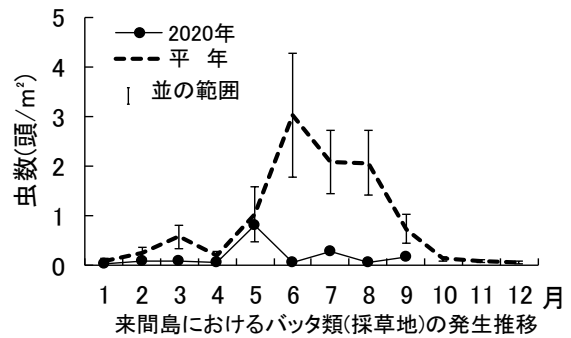
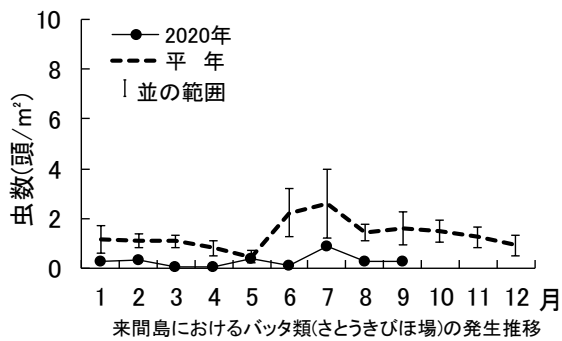


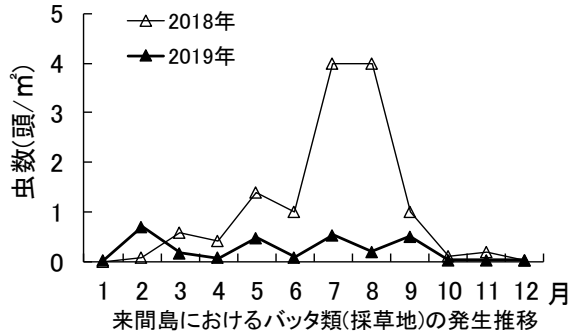
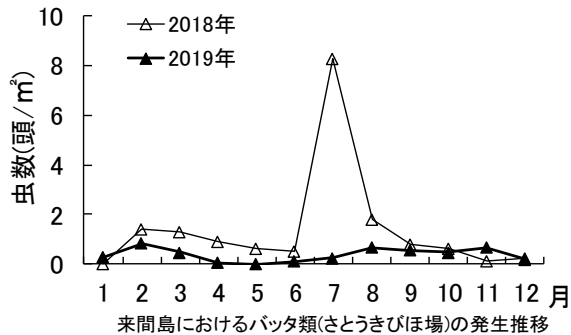
作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報	9 月からの増減傾向	↓		
	10 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

今年と平年の推移




過去 2 年の推移

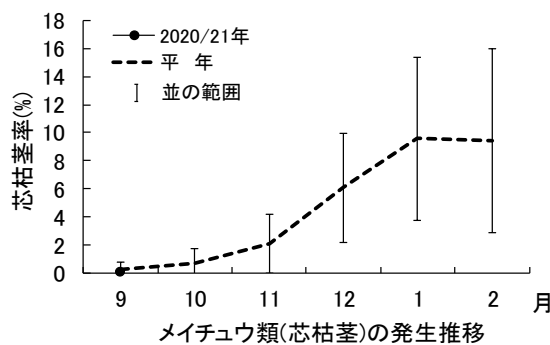


防除のポイント

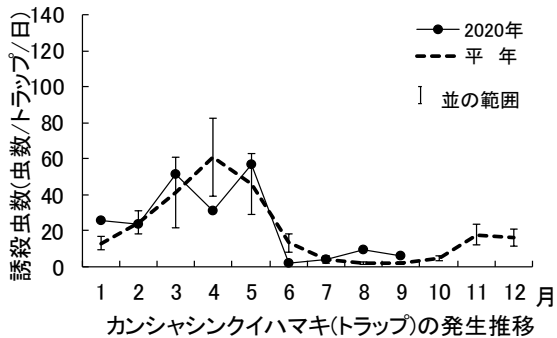
- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

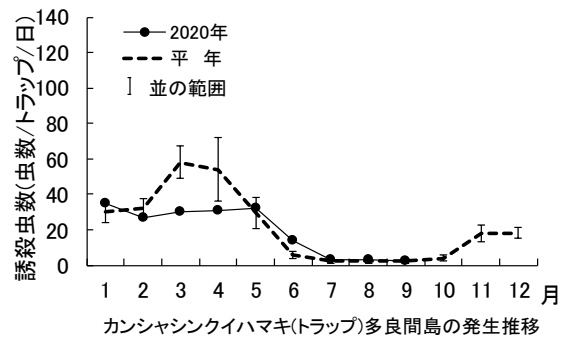
調査結果



宮古島




多良間



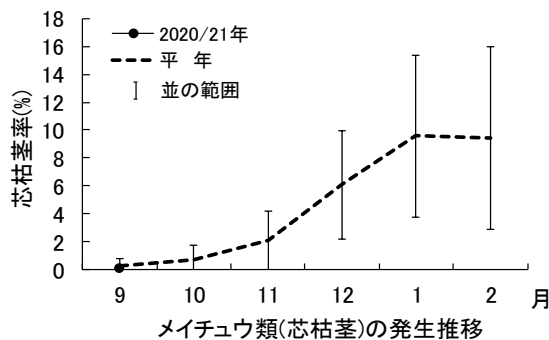
- ・ 芯枯れ発生ほ場率：5.0% (平年値：26.1%)
- ・ 今回の茎内調査では、メイチュウ類を発見できなかった。

防除のポイント

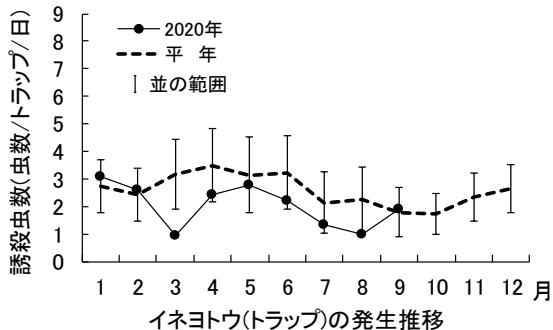
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

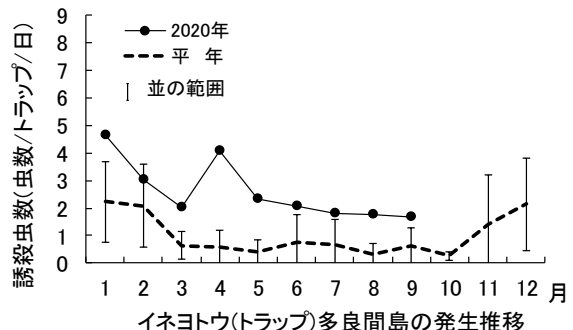
調査結果



宮古島




多良間



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：5.0% (平年値：26.1%)
- ・ 今回の茎内調査では、メイチュウ類を発見できなかった。

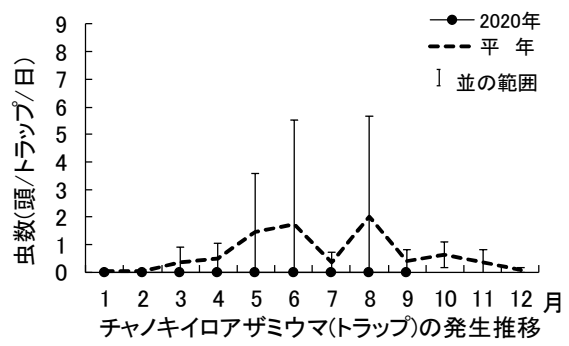
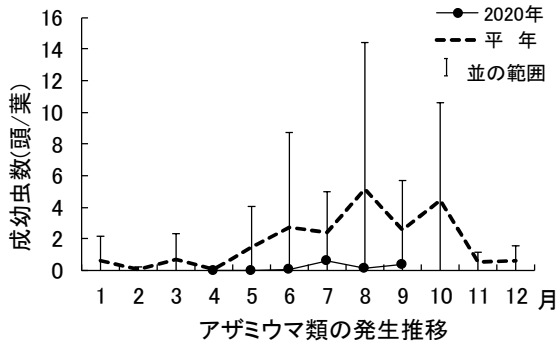
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

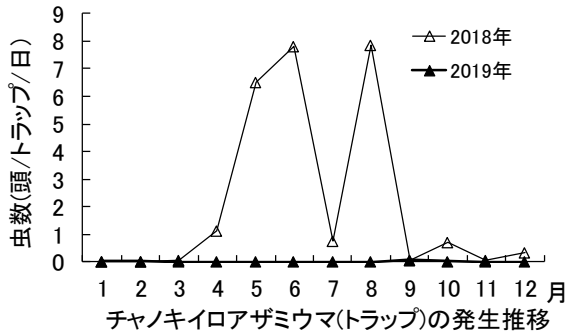
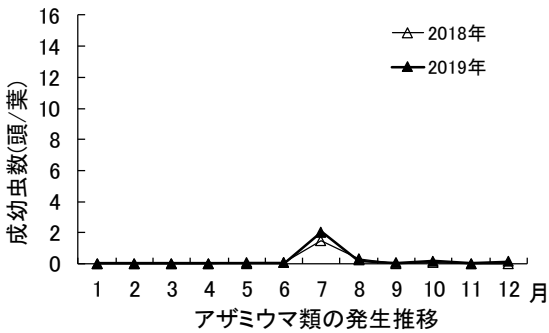
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移




- ・一部施設で多発した。
- ・発生ほ場率：100% (平年値：70.8%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

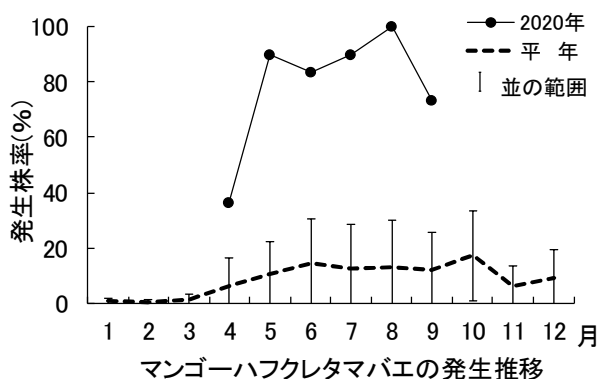


ナガエコミカンソウ

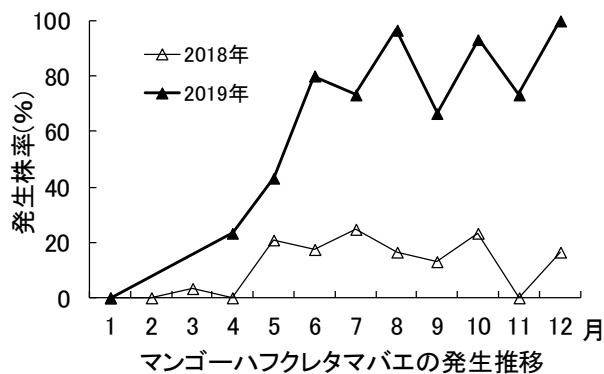
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	多	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗） 新梢が発生量が増加するため	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年の推移



- ・被害新梢率：64%（平年値：21.7%）
- ・発生ほ場率：80%（平年値：32.5%）

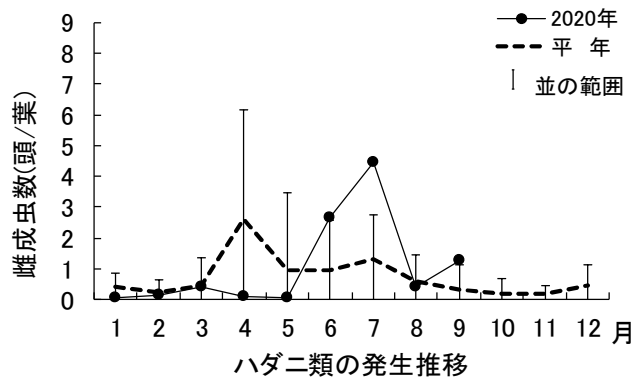
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

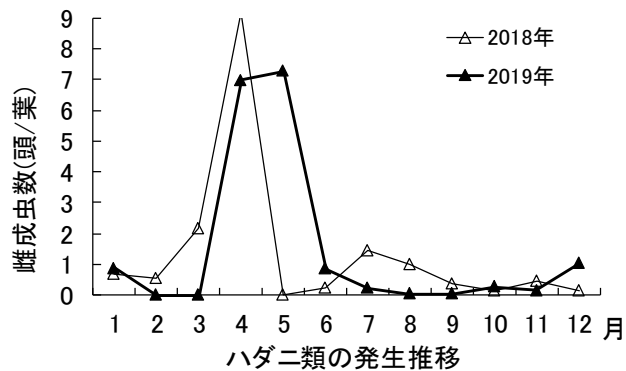
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率：40% (平年値：24.0%)

防除のポイント

- ・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症